106　**午　後**

◎　**指示があるまで開かないこと。**

（令和５年２月９日　13時55分 ～ 15時15分）

注　意　事　項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味１時間20分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

⑴　（例１）、（例２）及び（例３）の問題では１から４までの４つの選択肢、もしくは１から５までの５つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を（例１）、（例２）では１つ、（例３）では２つ選び答案用紙に記入すること。

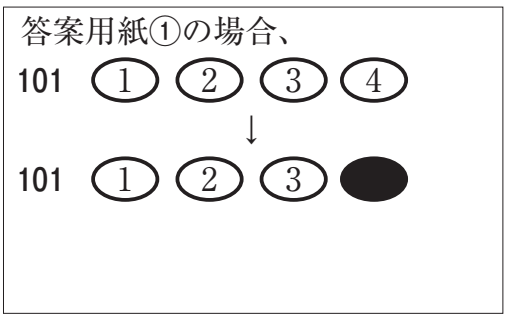
なお、（例１）、（例２）の質問には２つ以上解答した場合は誤りとする。（例３）の質問には、１つ又は３つ以上解答した場合は誤りとする。

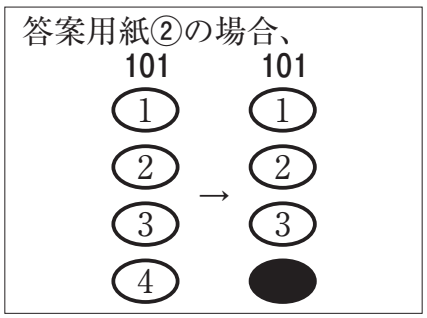
（例１）

101　助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「４」であるから答案用紙の ④ をマークすればよい。



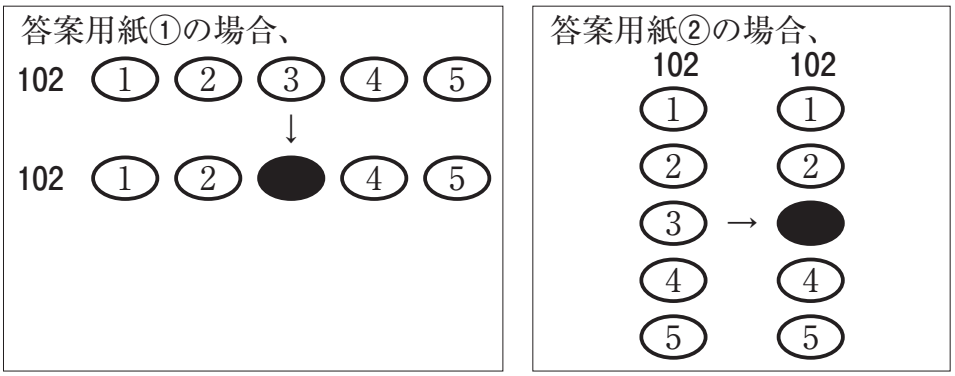


（例２）

102　保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年（1899 年）
2. 大正　4 年（1915 年）
3. 昭和 23 年（1948 年）
4. 昭和 43 年（1968 年）
5. 平成 13 年（2001 年）

正解は「３」であるから答案用紙の ③ をマークすればよい。

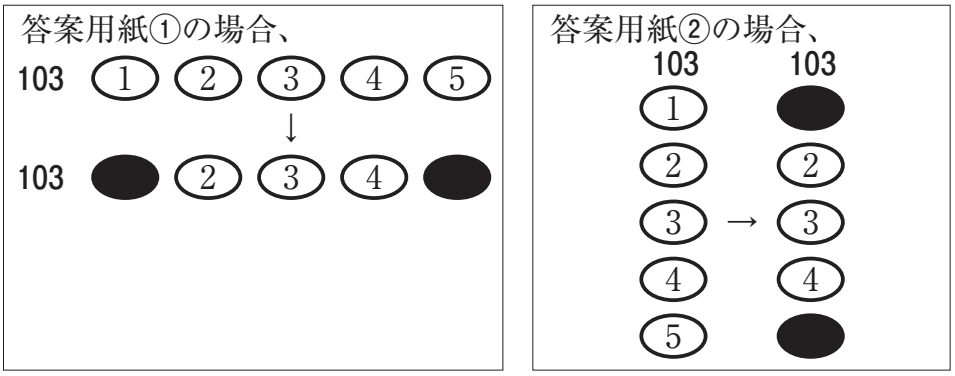


（例３）

103　助産師籍に登録されるのはどれか。**２つ選べ。**

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「１」と「５」であるから答案用紙の ① と ⑤ をマークすればよい。



(2) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

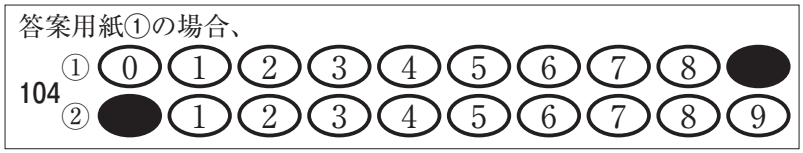
ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：① ② %

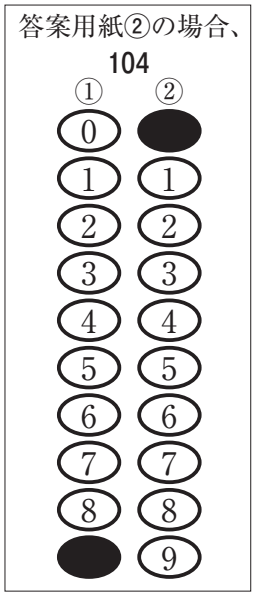
①	②
0	0
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、



答案用紙②の場合、



1　セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方で適切なのはどれか。

1. 居住する地域の宗教的価値観によって決められる。
2. 思春期から成熟期までが対象となる。
3. 身体的生殖機能に重点が置かれる。
4. 人間としての権利である。

2　骨粗鬆症について正しいのはどれか。

1. 閉経後に起こるのは原発性骨粗鬆症である。
2. 原発性骨粗鬆症より続発性骨粗鬆症の者が多い。
3. 食事療法ではカルシウムに加えカリウムを摂取する。
4. プロゲステロンの低下によって骨粗鬆症になりやすい。

3　子宮内膜症について正しいのはどれか。

1. 卵巣癌のリスク因子である。
2. エストロゲン貼付薬を治療に用いる。
3. 自覚症状を認めることはまれである。
4. プロゲステロンに依存する疾患である。

4　細菌性腟症について正しいのはどれか。

1. 原因菌はカンジダである。
2. 腟内 pH が 4.0 以下に低下する。
3. 腟内の乳酸桿菌量の減少を認める。
4. 帯下の肉眼的所見で確定診断できる。

5 男性不妊について正しいのはどれか。

1. 造精機能障害は男性不妊の約 40 % である。
2. 造精機能障害ではテストステロンが上昇する。
3. Huhner〈フーナー〉試験は精子の受精能をみる。
4. 思春期以降の流行性耳下腺炎の罹患は男性不妊の原因となる。

6 妊娠期にみられる女性生殖器の変化で正しいのはどれか。

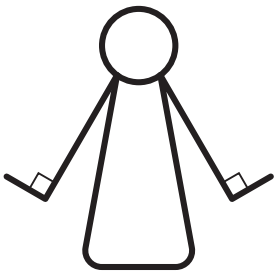
1. 外陰部の色素沈着は増加しない。
2. 子宮頸管は妊娠後すぐに粘液で塞がれる。
3. 妊娠黄体は分娩までプロゲステロンを分泌する。
4. 妊娠末期から Braxton-Hicks〈ブラクストン・ヒックス〉収縮が子宮に出現する。

7 羊水について正しいのはどれか。

1. 抗菌作用を有する。
2. pH は 4 ～ 5 である。
3. 妊娠 40 週ころに最大量となる。
4. 妊娠中期以降は胎盤が主な産生源である。

8　Dubowitz 法における新生児の神経学的所見で点数が低いのはどれか。

1. 上肢のもどり反応　90 度



2. 手首の角窓　0 度

3. 膝窩角　90 度

4. 足首の背屈　90 度

9　A さん(38 歳、女性)は 3 年前から不妊治療を受けている。「医師から新たな治療方法を勧められました。不妊治療をこのまま続けるか迷っています」と話す。助産師は A さんへの意思決定支援を行うことにした。

意思決定の共有モデル〈shared model〉に沿った助産師の対応はどれか。

1.「医師から説明があった治療を受けることをお勧めします」
2.「治療方法の説明冊子があるので持ち帰ってご覧ください」
3.「治療継続のリスクや利点について一緒に考えましょう」
4.「ご家族に相談してはいかがですか」

10　30 歳の初産婦、既往歴なし。妊娠経過を以下に示す。

妊娠週数	16 週 6 日	26 週 6 日	28 週 6 日	30 週 6 日
子宮底長(cm)	14	23	24	25
腹　囲(cm)	78	83	84	85
体　重(kg)	58.0	61.0	61.8	62.5
血　圧(mmHg)	112/58	128/76	130/88	150/103
浮　腫	(−)	(−)	(−)	(−)
尿蛋白	(−)	(±)	2 +	3 +
尿　糖	(−)	(−)	(−)	(−)
推定胎児体重(g)		915	1,100	1,200

妊娠 30 週 6 日の状態で考えられるのはどれか。

1. 妊娠高血圧
2. 高血圧合併妊娠
3. 妊娠高血圧腎症
4. 加重型妊娠高血圧腎症

11　A さん(28 歳、初産婦)は妊娠 38 週 0 日、身長 160 cm、体重 66 kg(非妊時体重 55 kg)である。児は頭位で回旋異常はない。児の推定体重は 2,800 g。

分娩の進行状況と呼吸法の誘導の組合せで適切なのはどれか。

1. 子宮口全開大、肛門圧迫感はない。 ―――― 陣痛発作時に努責を促す。
2. 児頭が排臨し抑えきれない努責感がある。 ―― 努責しないよう促す。
3. 児の後頭結節が恥骨弓下を滑脱する。 ―――― 陣痛間欠時に努責を促す。
4. 児頭が発露し第 3 回旋する。 ―――― 短息呼吸を促す。

12　第2前方後頭位での正常分娩における児頭の娩出機転で正しいのはどれか。

1. 児頭の先進部がHodge〈ホッジ〉骨盤平行平面区分で第3平行平面にある場合、矢状縫合は骨盤横径に一致する。
2. 児頭の最大周囲径が骨盤入口部にある場合、小泉門は2時方向にある。
3. 児頭の最大周囲径が骨盤峡部にある場合、大泉門は7時方向にある。
4. 骨重積は左頭頂骨が右頭頂骨の上に重なる。

13　Aさん(32歳、初産婦)は妊娠39週2日、5時に陣痛発来し11時に入院した。17時の内診所見は子宮口6 cm開大、Station −1。19時に訪室するとベッドに横になり、陣痛間欠3分、陣痛発作30秒であった。内診所見は子宮口7 cm開大、Station ±0、未破水、バイタルサインは、体温36.7℃、脈拍76/分、整、血圧122/64 mmHgであった。胎児心拍数陣痛図はreassuring fetal statusであった。

このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 水分摂取を控えるよう説明する。
2. 病棟の廊下の歩行を勧める。
3. 医師に連絡する。
4. 人工破膜を行う。

14　産後1か月の健康診査で褥婦が「お産した後から、咳やくしゃみをすると少し尿が漏れます」と話した。子宮収縮は良好で、内診時に子宮頸部の下垂を認めた。バイタルサインは、体温36.4℃、脈拍76/分、整、血圧126/70 mmHg、尿蛋白(−)、尿糖(−)、潜血(−)であった。

このときのアセスメントで正しいのはどれか。

1. 切迫性尿失禁である。
2. 安静が必要な状態である。
3. 骨盤底筋群の弛緩がある。
4. 下部尿路系の炎症を起こしている。

15　産褥 14 日の褥婦は、急な熱感、疲労感および腰部右側に強い痛みが出現し、受診した。体温 38.7 ℃、乳房緊満(＋)、乳汁分泌は良好。腹壁から子宮は触れず、子宮体部の圧痛はない。腰背部の叩打痛がある。淡黄色の悪露が極少量ある。

このとき考えられるのはどれか。

1. 産褥熱
2. 胆石症
3. 乳腺炎
4. 腎盂腎炎

16　新生児期にみられる原始反射はどれか。

1. 視性立ち直り反射
2. パラシュート反射
3. 非対称性緊張性頸反射
4. Landau〈ランドー〉反射

17　日齢 1 の新生児。頭位経腟分娩での出生時、肩甲の娩出に時間がかかり McRoberts〈マックロバーツ〉法が実施された。出生体重 4,150 g。安静時の視診では頭頸部や四肢、肢位に異常を認めなかった。把握反射はあり左右差は認めなかったが、Moro〈モロー〉反射が左右非対称だった。児に着衣しようとしたところ突然激しく啼泣したが、啼泣時の口角は左右対称でゆがみはない。

児の状態で最も考えられるのはどれか。

1. 鎖骨骨折
2. 顔面神経麻痺
3. 帽状腱膜下出血
4. Erb〈エルブ〉麻痺

18　Ａちゃん(生後６か月、男児)は両親と３人暮らしである。Ａちゃんが通所している保育所でロタウイルス感染症が流行している。母親がＡちゃんを連れて６か月児健康診査のために病院を受診した際、「Ａはワクチンを接種していますが、ロタウイルスに感染したらどうなるのか心配です。感染を予防するにはどうしたらよいでしょうか」と話した。

助産師の母親への説明で正しいのはどれか。

1.「感染予防には抗菌薬内服が有効です」
2.「哺乳瓶をアルコールで消毒しましょう」
3.「通所時、Ａちゃんはマスクをしましょう」
4.「ワクチンを接種していれば重症化しにくいです」

19　日本人の初産婦から在胎41週０日で出生した出生体重3,950 g、身長51.0 cmの男児の分類で正しいのはどれか。

1. 巨大児
2. 過期産児
3. heavy-for-dates 児
4. large-for-dates 児

20　母子及び父子並びに寡婦福祉法に規定されている制度はどれか。

1. 生活扶助
2. 生活資金の貸付
3. 特別児童扶養手当
4. 児童養護施設の利用

21　A さん(28 歳)は排卵時期が一定せず不妊治療を受けている。月経開始後 16 日、産婦人科医院を受診した際に経腟超音波検査で右卵巣に 20 mm の卵胞が確認された。

A さんの排卵を誘導できるホルモンはどれか。

1. プロラクチン
2. プロゲステロン
3. エストラジオール〈E2〉
4. 卵胞刺激ホルモン〈FSH〉
5. ヒト絨毛性ゴナドトロピン〈hCG〉

22　中胚葉から分化する器官・臓器はどれか。

1. 気管上皮
2. 肝　臓
3. 子　宮
4. 乳　腺
5. 膀　胱

23　早期母子接触を中止すべき児の経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO_2〉の基準はどれか。

1. 88 % 未満
2. 90 % 未満
3. 92 % 未満
4. 94 % 未満
5. 96 % 未満

24　Ａちゃん(生後９か月、男児)は助産所で出生し、これまでに異常を指摘されたことはない。出生体重3,000 g。完全母乳栄養で育ち、離乳食は生後６か月から始まり、現在は１日２回食で歯ぐきで潰して食べている。Ａちゃんの母親は「上の子の同じ時期に比べて食べる量が少ない。大丈夫でしょうか」と助産所に相談に来た。来所時、身長72.0 cm、体重9,000 g、母乳の授乳回数は１日５回であった。Ａちゃんは子ども用の椅子に座って離乳食を食べている。

助産師の母親への助言で適切なのはどれか。

1.「授乳回数を減らしましょう」
2.「もう少し柔らかく調理しましょう」
3.「好きな食品を重点的にあげましょう」
4.「時間を決めずに離乳食をあげましょう」
5.「このまま１日３回食へ進めていきましょう」

25　助産業務ガイドライン2019に基づき、正常分娩急変時に経産婦を助産所から搬送すべき状況はどれか。

1. 羊水が淡黄色である。
2. 母体の体温が37.8 ℃である。
3. 単発の遅発一過性徐脈がある。
4. 破水後24時間経過したが陣痛が発来しない。
5. 子宮口全開大から１時間経過したが分娩が進行しない。

26　特別養子縁組制度について正しいのはどれか。**２つ選べ**。

1. 親権は実親が持つ。
2. 平成28年から日本で導入されている。
3. 養親子の戸籍に養子関係の記載をする。
4. 保護を必要とする子どものための制度である。
5. 特別養子縁組の成立には家庭裁判所の調査に基づく審判が必要である。

27 Biophysical Profile Score〈BPS〉の評価項目で正常と判定できるのはどれか。**2つ選べ**。

1. 3 cm の羊水ポケットが確認できる。
2. 四肢の動きが 30 分間に 3 回確認できる。
3. 体幹と四肢が 30 分間、伸展位で屈曲しない。
4. 10 秒続く呼吸様運動が 30 分間に 1 回確認できる。
5. ノンストレステスト〈NST〉で一過性頻脈が 40 分間に 1 回確認できる。

28 硬膜外麻酔を用いた無痛分娩で正しいのはどれか。**2つ選べ**。

1. 血圧の高い産婦には禁忌である。
2. 分娩第 2 期の所要時間が延長する。
3. 出生児の Apgar〈アプガー〉スコアが低くなる。
4. 麻酔薬の投与開始後 30 分間は頻回に血圧を測定する。
5. 下肢が動かない時は血管内に誤って注入した可能性がある。

29 第 1 前方後頭位の仰臥位分娩介助で正しいのはどれか。**2つ選べ**。

1. 排臨になった時点で肛門保護を会陰保護に切り替える。
2. 小泉門が恥骨弓下を滑脱するまで児頭を屈位に保つ。
3. 児頭娩出後は児の顔が母体の左大腿側に向くように誘導する。
4. 前在肩甲娩出時は児の側頭部を会陰側に押し下げる。
5. 後在肩甲娩出後に児の体幹を両手で把持し骨盤軸に沿って娩出させる。

30　経腟分娩後に正常に経過している産褥 6 週の褥婦の状態で正しいのはどれか。**2 つ選べ**。

1. 外子宮口は閉鎖している。
2. 血液凝固能は亢進している。
3. 子宮の重さは約 300 g である。
4. 循環血液量は非妊時より多い。
5. 腎血流量は非妊時の状態に回復している。

31　先天性難聴および新生児聴覚スクリーニングで正しいのはどれか。**2 つ選べ**。

1. 検査は自然睡眠中に行うのが望ましい。
2. 初回検査は 3 か月児健康診査時に実施する。
3. 先天性難聴児の出生頻度は約 10,000 人に 1 人である。
4. 支援が必要な児に対する療育は 1 歳になったら開始する。
5. 妊娠初期の母体の風疹感染は児の先天性難聴のリスク因子となる。

32　母子保健法に基づく産後ケア事業で正しいのはどれか。**2 つ選べ**。

1. 実施主体は都道府県である。
2. 出産後 1 年以内は利用できる。
3. 利用できるのは初産婦に限られる。
4. 自宅への訪問サービスを申請できる。
5. 申請時に医師の診断書が必要である。

33 分娩を伴う入院でハイリスク分娩管理加算の対象となるのはどれか。**2 つ選べ**。

1. 分娩前の BMI が 30
2. 妊娠 33 週の早産
3. 糖尿病で治療中
4. 39 歳の初産婦
5. 双胎妊娠

34 双生児を出産した会社員が利用できる制度で正しいのはどれか。**2 つ選べ**。

1. 産後休業は 14 週間である。
2. １児ごとに出産育児一時金が支給される。
3. 子が就学するまで短時間勤務を申請できる。
4. 子の看護休暇は 1 年間に 10 日まで取得できる。
5. 産後 2 年まで医師の指示による受診に必要な時間を申請できる。

35　周産期医療体制で正しいのはどれか。**2つ選べ**。

1. 周産期医療体制整備計画は都道府県が策定する。
2. 母体の救急搬送は妊産婦が居住している都道府県内に限られる。
3. 地域周産期母子医療センターの認定には産科と小児科が必要である。
4. 総合周産期母子医療センターは常時母子の搬送を受け入れる機能がある。
5. 総合周産期母子医療センターのNICUの看護師配置は常時6床に1名である。

次の文を読み 36〜38 の問いに答えよ。

A 女子高校から助産師に 1 年生(15、16 歳)全員への健康教育と個別の健康相談の依頼があった。健康教育の目的は「自分の身体を知ること」である。A 女子高校の 1 年生の入学時の身体測定値は全国平均と同等であった。

36 今回の健康教育における対象者の身体的特徴として考えられるのはどれか。

1. 身長の発育速度は同年の男子を上回っている。
2. 卵胞刺激ホルモン〈FSH〉は上昇を続けている。
3. 無排卵性の月経周期の頻度が性成熟期に比べて高い。
4. 黄体形成ホルモン〈LH〉は初経発来前と比べ低値である。

37 A 女子高校の養護教諭から助産師に、1 年生は特に月経前に頭痛、腹痛、イライラや不安感を訴えて保健室に来る生徒が多いという情報提供があった。

助産師が行う健康教育の内容で優先するのはどれか。

1. 無月経の種類
2. 月経発来の機序
3. 月経困難症への対応
4. 月経前症候群の説明

38　健康教育の終了後に１人の生徒から、「私はまだ月経が来ていません。どうしたらいいでしょうか」と相談があった。学校生活の様子を聞くと、「高校に入ってから部活で陸上競技を始めて、週に３、４日練習しています。特に、身体の調子は悪くありません」と話した。生徒の身長は 150 cm、体重 44 kg で乳房の発育は他の生徒と変わりなく見える。

このときの助産師の助言で適切なのはどれか。

1.「運動を控えましょう」
2.「食事量を増やしましょう」
3.「もう少し様子を見ましょう」
4.「婦人科の診察を受けましょう」

次の文を読み 39〜41 の問いに答えよ。

A さん(39 歳、初産婦)は身長 158 cm、体重 58 kg、特記すべき合併症はない。妊娠 41 週 3 日、予定日超過のため、オキシトシンの点滴静脈内注射による分娩誘発が 9 時から開始された。

39 15 時の内診所見は、児頭が先進し、子宮口 7 cm 開大、展退度 80 %、Station −1、陣痛発作時に胎胞が緊満して触れた。子宮収縮は 10 分間で 6 回ある。胎児心拍数陣痛図で、胎児心拍数基線 150 bpm、基線細変動 10 bpm、最下点が 70 bpm で回復まで 3 分 30 秒の一過性徐脈がみられた。

このときの A さんへの対応で適切なのはどれか。

1. 努責を促す。
2. 経過観察をする。
3. 人工破膜をする。
4. 吸引分娩の準備をする。
5. オキシトシンを中止する。

40 A さんの分娩は順調に進行し、18 時に子宮口が全開大し、21 時に 3,720 g の女児を吸引分娩で出産した。胎盤は自然娩出されたが、分娩後 30 分の時点で子宮腔内からの出血が持続している。A さんの意識は清明で、バイタルサインは、体温 37.4 ℃、呼吸数 25/分、脈拍 102/分、整、血圧 98/61 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO_2〉97 %(room air)である。

この時点で推測される出血量はどれか。

1. 100 mL 以上、500 mL 未満
2. 500 mL 以上、1,000 mL 未満
3. 1,000 mL 以上、2,000 mL 未満
4. 2,000 mL 以上、3,000 mL 未満

41　22時、Aさんの子宮は軟らかく、子宮腔内からの暗赤色の出血が続いている。会陰裂傷縫合部からも血液がしみ出すようになった。検査所見は、赤血球267万/μL、Hb 6.8 g/dL、Ht 23 %、白血球6,400/μL、血小板7万/μL、フィブリノゲン92 mg/dL。Aさんは呼びかけには開眼し、皮膚は湿っている。バイタルサインは、体温37.5 ℃、呼吸数32/分、脈拍120/分、整、血圧79/58 mmHg。酸素マスクで酸素が投与され、オキシトシンを加えた乳酸加リンゲル液の点滴静脈内注射が行われている。

このときのAさんへの対応で適切なのはどれか。**2つ選べ**。

1. 輸　血
2. 子宮摘出
3. 乳頭刺激
4. 裂傷縫合部の再縫合
5. 子宮腔内バルーンタンポナーデ

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

A さん(31 歳、1 回経産婦)は既往歴に特記すべきことはない。妊娠経過は順調であった。妊娠 38 週 6 日に陣痛発来し、2 時に入院した。分娩第 2 期遷延のためオキシトシンを用いて陣痛を促進し、23 時に 2,980 g の男児を出産した。Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後、5 分後ともに 9 点であった。分娩所要時間 22 時間、分娩時出血量 450 mL、会陰裂傷Ⅱ度、分娩後 2 時間の母児の経過は良好であった。

42 分娩後 3 時間に訪室すると「縫合部がだんだん痛くなってきました。夜中で眠りたいのに痛みで眠れそうもありません」と訴えた。会陰部の観察をしたところ、創部に軽度の腫脹がみられたが離開や血腫はなかった。

このときの A さんへの対応で適切なのはどれか。

1. 医師の診察を要請する。
2. 会陰部の温罨法を行う。
3. 仰臥位を保つよう勧める。
4. 非ステロイド性抗炎症薬〈NSAIDs〉の内服を提案する。

43 A さんの乳房はⅢ型で、短乳頭である。第 1 子は混合栄養であったため、今回は母乳栄養を希望している。産褥 3 日、乳房は全体的に温かく乳房緊満軽度あり、乳腺の開口数 3 ～ 4 本、乳輪部の圧迫で乳汁がにじむ。左乳頭に水疱がある。たて抱きで授乳しており、児頭の支えが不安定になっている。A さんは「おっぱいが張って痛いし、赤ちゃんもうまく吸ってくれません」と話す。体温 37.2 ℃、脈拍 78/分。子宮収縮は良好である。

このときの A さんへの対応で適切なのはどれか。

1. 直接授乳を中止する。
2. 乳房全体を冷罨法する。
3. 脇抱きでの授乳を勧める。
4. 乳房緊満がなくなるまで搾乳をする。

44　退院 2 週、A さんから「昨夜から左のおっぱいが痛いです。朝食後、急に寒気がして熱を測ったら 38.6 ℃ありました」と病院に電話があり、母乳外来を受診するよう勧めた。30 分後、A さんは夫に付き添われて来院した。

このときの観察項目で優先度が高いのはどれか。

1. 乳房の外傷
2. 副乳の有無
3. 乳頭亀裂の有無
4. 乳房の硬結の有無
5. 乳房の大きさの左右差

次の文を読み 45〜47 の問いに答えよ。

Ａちゃん(生後２時間、男児)の母親(経産婦)は妊娠前から 10 本/日の喫煙をし、妊娠判明後も禁煙できなかったが、それ以外に妊娠、分娩経過で異常はなかった。Ａちゃんは在胎 40 週３日、自然分娩で出生した。出生体重 2,520 g、身長 49.0 cm、頭囲 33.0 cm。Apgar〈アプガー〉スコアは１分後９点、５分後９点。出生後の全身状態は問題なく、生後 15 分から早期母子接触を開始している。Ａちゃんのバイタルサインは、体温 37.3 ℃、呼吸数 50/分、心拍数 160/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO_2〉97 %(room air)。出生後まだ初回排尿、排便はみられていない。

45　現時点で注意すべきＡちゃんの病態はどれか。

1. 黄　疸
2. 低血糖
3. 敗血症
4. 急性腎不全
5. 新生児一過性多呼吸

46　主治医はＡちゃんの精密検査のために血液検査をすることにした。

採血の補助をする助産師がＡちゃんのストレス緩和のために行う対応で適切なのはどれか。

1. 腹臥位にする。
2. 目隠しをする。
3. 頭部を固定する。
4. おしゃぶりを含ませる。

47　Ａちゃんは日齢６に母親とともに退院した。日齢30、１か月児健康診査の受診のためＡちゃんは母親と来院した。体重増加は良好で診察は問題なく終了したが、母親はＡちゃんと視線が合わず、Ａちゃんの目が見えているのかどうかを心配している。

健康診査に立ち会った助産師から母親の心配への声かけで適切なのはどれか。

1.「あやすとＡちゃんが笑うようであれば大丈夫ですよ」
2.「Ａちゃんは目をしっかりと開くことができていますね」
3.「お母さんをＡちゃんが目で追わないのであれば心配です」
4.「音がした方向をＡちゃんが向くことがあれば大丈夫ですよ」
5.「お母さんの顔をＡちゃんがじっと見ることがあれば大丈夫ですよ」

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

A 病院の産科病棟は 5 階に位置している。平均分娩数は 40 件/月で、母児同室としている。

48 近年の災害多発を踏まえ、病棟の災害対策マニュアルを改訂することにした。このマニュアルに記載する内容で正しいのはどれか。

1. 新生児用に流量膨張式バッグを常備する。
2. 新生児用のコットは四隅にストッパーをかける。
3. 平時に使用する分娩セットを災害時にも使用する。
4. スタッフ用のヘルメットは夜勤者の人数分をスタッフステーションに置く。

49 マニュアル改訂後 1 か月、11 時に震度 6 強の地震が発生した。病院内では火災の発生や建物の損壊がないことを確認したが、病棟から避難することになった。このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 母児異室の新生児は職員が避難させる。
2. 母児同室の新生児は母親と一緒に避難する。
3. 母親が退院後の新生児はコットに寝かせて避難する。
4. 正常に経過している褥婦はパートナーに迎えに来てもらう。

50　発災3日、Bさん(28歳、初産、産後40日)から産科へ相談があった。児は出生体重3,200 gで、発災前日の体重は4,500 g、授乳回数は1日に10回で母乳のみであった。昨日は排便5回/日、排尿回数は不明だが、量は減っていない。発災後の授乳回数は変わらず、1回20 mLの人工乳を夕方と夜に補足している。自宅には被害がなく、ライフラインは復旧している。Bさんは「地震後、母乳が出にくくなった気がして心配です。授乳以外にも余震のたびに目が覚めてしまいます。大丈夫でしょうか」と話した。

助産師のBさんへの説明で適切なのはどれか。

1.「ミルクを湯ざましに変更しましょう」
2.「医師に睡眠導入薬について相談してみましょう」
3.「今までどおり吸わせていけば母乳で充分ですよ」
4.「安全な福祉避難所への移動を検討してみましょう」

次の文を読み 51、52 の問いに答えよ。

A さん(28 歳、1 回経産婦)は既往歴、家族歴ともに特記すべきことはない。妊娠 11 週 0 日に妊婦健康診査のため産婦人科を受診した。身長 155 cm、体重 40.3 kg(非妊時体重 40 kg)で 2 週前から 300 g 増加している。血圧 100/68 mmHg、下肢の浮腫(−)、尿蛋白(−)、尿糖(−)、尿ケトン体(−)、胎児心拍動を確認している。A さんは助産師に「何か食べていないと気持ち悪くなります。そうめんとオレンジばかり食べています。水分は無糖の炭酸飲料で摂っています」と話す。

51 このときの A さんのアセスメントで正しいのはどれか。

1. 嗜好の変化は生理的である。
2. 制吐薬の点滴静脈内注射が必要である。
3. 栄養バランスの偏りは胎児の発育に影響する。
4. この時期の体重増加は母体の心臓に過度な負荷をかける。

52 妊娠 22 週 6 日、A さんは妊婦健康診査に来院した。体重 41.3 kg、血圧 106/73 mmHg、下肢の浮腫(−)、尿蛋白(−)、尿糖(−)、腹囲 75 cm、子宮底長 17 cm、推定胎児体重 500 g。下腹部痛や性器出血はない。A さんは助産師に「空腹時の気持ち悪さはなくなりました。妊娠前の食生活に戻っています。もともと 1 日 2 食でした」と話す。

今後、A さんと胎児に考えられる健康のリスクはどれか。

1. 胎児貧血
2. 羊水過多
3. 妊娠糖尿病
4. 妊娠高血圧症候群
5. 胎児発育不全〈FGR〉

次の文を読み 53、54 の問いに答えよ。

A さん(28 歳、1 回経産婦)は無月経に気付き受診し、妊娠 8 週と診断された。視診で会陰部や腟内に乳頭状の疣贅を認めた。腟鏡診では子宮頸部に病変は認めない。A さんは「3 か月ほど前から外陰部が痒くなりました」と話している。

53 A さんへの説明で適切なのはどれか。

1.「流産になるリスクが高まります」
2.「いぼを外科的に除去する治療を行います」
3.「赤ちゃんが鵞口瘡になる可能性があります」
4.「いぼはヘルペスウイルスの感染が原因です」

54 その後、A さんの疣贅は消失し、妊娠経過に異常はなかった。妊娠 35 週で児の推定体重は 2,360 g であった。妊娠 36 週 3 日、1 時から陣痛発来し 2 時に入院した。子宮口 6 cm 開大、展退度 80 %、Station −1 で児頭が先進している。胎児心拍数陣痛図は reassuring fetal status であった。助産師は問診と診療録から、第 1 子が B 群溶血性連鎖球菌〈GBS〉感染症であったこと、妊娠 35 週時の B 群溶血性連鎖球菌〈GBS〉感染症検査は実施していないことを確認した。

このときの A さんに適用されるのはどれか。

1. 帝王切開分娩
2. 尿の細菌培養検査
3. 陣痛促進薬の点滴静脈内注射
4. ペニシリン系抗菌薬の点滴静脈内注射

次の文を読み 55 の問いに答えよ。

A さん(32 歳、初産婦)は妊娠 12 週 0 日で妊娠の診断を受けた。身長 155 cm、体重 70 kg(非妊時体重 68 kg)、血圧 120/80 mmHg、血液検査データは随時血糖 85 mg/dL、HbA1c 5.5 % であった。その後、妊婦健康診査を受診せず、妊娠 33 週 0 日で来院した。来院時、体重 82 kg、血圧 130/80 mmHg、尿蛋白(−)、尿糖 2 +、子宮底長 35 cm、推定胎児体重 2,600 g、AFI は 23 cm であった。

55 このときの A さんの状態のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 塩分制限が必要である。
2. 羊水検査が必要である。
3. 耐糖能検査が必要である。
4. 腟分泌物の細菌培養検査が必要である。